



【今週の暗唱聖句】

信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。 ヘブル11:8

●「信仰」という言葉を理解しようする時に、この言葉を「信頼」と置き換えて見ると意味が見えて来る。信頼は信頼される側と信頼する側の「二者」を必要とする。アブラハムは神の約束の言葉を信じることによって神ご自身を信頼していることを示したのである。

●神は聖書のことばをもって沢山のことを私たちにも約束しておられる。祈り深くそれらの約束を黙想して行くなら「私個人」に対して神が約束しておられることが何であるかが聖霊によって示されるものである。それを信じて行動に移すことが信仰なのである。■

【7月～8月の教科予定／信仰の父アブラハム】

グリニッチ福音キリスト教会のカリキュラムはCS成長センター「成長」に沿っています。

月日	タイトル	聖書箇所
7/6	神の召しを聞く	創世記11:27～12:9
7/13	アブラハムとロト	創世記13章
7/20	神の約束と励まし	創世記15:1～6、17:1～8他
7/27	ロトのために祈る	創世記18:16～33
8/3	ゲスト：錦織学先生 (ニュージャージー日本語教会)	
8/10	イサクの誕生	創世記21:1～8
8/17	イサクをささげる	創世記22:1～19
8/24	イサクの結婚	創世記24章

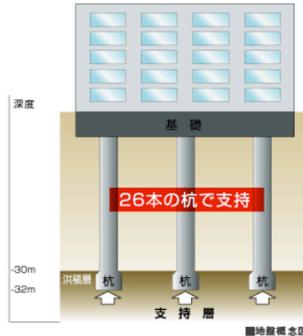
「信仰の父アブラハム」がこれから二ヶ月間のテーマとなる。アブラハムはユダヤ民族にとっては父祖の父祖としての存在であるが、神がアブラハムに与えた約束は彼が「全世界の人々」の父祖となるということであった。果たしてそれはどのように実現したのだろうか。それはアブラハムの子孫の中から全世界の救い主が現れることによってである。その救い主を受け入れた者たち、すなわちイエス・キリストに信頼した者たちは全てアブラハムの子孫と見なされるのである。クリスチャンはアブラハムの子孫という立場を頂いただけでなく、足跡を辿るべき模範として信仰の父としてのアブラハムから多くのことを学ぶことができるのである。■

【先週のMESSAGEより】

揺るがない生活

マタイ7:24-29

●地震国日本において建物の基礎は特に大切である。特に軟弱な地盤に立てたり、高いビルを建てたりする場



とつても、現代の日本人にとつても分かりやすい。

●イエスの教え、聖書の言葉は実行されてこそが意味があるものである。い

ろいろな命令があるわけだがクリスチャンはイエスを「主」と呼び、自らを「しもべ」とわきまえるかぎり主に従うことについては選択の余地がないはずである。実際に御言葉に従う時に御言葉の力を知り、神を「体験」するようになる。神ご自身を实际生活の中でどれくらい体験し、経験しているかが、いざ人生の危機という洪水が押し寄せて来た時にその人が立つか倒れるかを決定することになるのである。

合

【今週の英語】 米国独立宣言抜粋 2nd Paragraph

We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal, that they are endowed with their Creator with certain unalienable Rights, that among these are Life, Liberty and the pursuit of Happiness.

われわれは、自明の真理として、すべての人は平等に造られ、造物主によって、一定の奪いがたい天賦の諸権利を付与され、その中に生命、自由および幸福の追求のふくまれることを信ずる。

●アメリカのキリスト教離れが進めば進むほど、ここで言う「自明の真理」が「自明」でなくなっていることは残念なことである。■

